

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	高橋, 吉之助
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1951
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.44, No.3/4 (1951. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19510401-0105">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19510401-0105</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

經濟學的見地から簿記を眺めようとしてゐる點である。序文にも述べられてゐるように、簿記は、ただ、單に企業經理を擔當するもの専門的特殊技術として必要な知識であるだけではなく、廣く、近代人の一般教養の學として知識人が修めなければならぬ學であるという信念、けだし、このような着想から湧いてくるであらう。

本書の特徴としては、次の諸點をあげることができる。  
(1) 決算の修正記入を一々精算表によつて具體的に説明した。この試は、決算報告書作製上の要領を理解せしめる上に有効である。

(2) 資本取引に關する説明が、改正商法に基いて敘述されていること。この點において本書は、最も斬新な諸問題をとりあげてゐる。

(3) 各章の終りに、適正な例題を豊富に掲げたこと。これによつて讀者は自習の便をもつことができる。

以上の外に、さらに特筆すべきことは、巻頭に福澤諭吉「帖合之法」、卷一、第一編から、簿記の重要性を強調した二節が引用され掲げられてゐることである。明治六年、我國へ始めて複式簿記を紹介された故人の熱情をここに新らたに再生せしめることは大いに意義のあるものといわねばならない。

本書の敘説は、全卷にわたつて懇切丁寧ですこぶる理解し易い。ただ、一つその敘説において粗より精に展開される過程に

一定の系列が示されることが望ましい。その敘説系列としては、本書としては企業形態もしくは經營規模を考慮されるべきではないかと思われるのであるが、その點においてはあまり考慮されていないようである。或は、著者は、その對象を株式會社におかれたのであるかもしれないが、その經營規模が考慮されるならば、混合勘定としての商品勘定は、三分法による分割だけにとどめないで、七分法もしくは九分法にまで展開せしめた方が、他方において、株式會社の資本構成をあれだけ精細に述べたことと調和するのではないであらうか。また、企業形態の點からは、その彼列が個人企業形態から、まつしぐらに、株式會社形態へと幕進し、その中間における合名、合資の人的會社形態を顧みない點は、或は、故意に、その必要がないとして無視されたのであるかもしれないけれども、今日、なお、少なからずこの種の企業形態が現存する限り、一應、それにもふれておくことが望ましいような氣がする。

編集後記

○米國の軍擴氣構の強化と豫期しなかつた朝鮮動亂の發生により、安定的不況傾向にあつた我國經濟は一轉して、鑛工業の生産水準は早くも戰前を超え、貿易は計畫を二割上廻り、ために企業の滞貨が一掃される等の成果を見たが、他面これに伴つて一應上界を示した實質賃銀が内外の物價騰貴に因つて再び低下傾向を辿りはじめ、また優良大企業の自己蓄積獎勵が税制、金融、貿易を通じて強化されたために業種別に資本調達力の差が目立つてきた。こうした國民消費支出と資本蓄積との不均衡は社會的不安をも内藏する重大な問題となりつゝある。

○更に最近には棚卸資産の充實の問題が重要工業における原料の確保如何という形で現われ、それが再生産過程を最も直接に制約する要素であるだけにこの原料問題を中心に再び統制の聲を聞く近頃ではある。まことに米國をはじめ英佛にも軍備強化に伴う統制が進行しつつあるとき、講和の具體化とともに國際經濟の振幅に支配される程度の愈々大となつた日本經濟が獨り安易な自由經濟に止まるを得ないとしても、「統制」が過去のそれの如きものであつてはならず、殊に企業の科學的合理化に對する自主的意欲を鈍らすことのないよう構想されるべきである。例の輸出入價格間のシェーレもこれを政策にのみ依存する態度は正しい解決を導出するものではない。

○日本經營學會の大會が今秋當塾に開催されることとなつたが、此の機會に我々はその成果を海外に問いたいと思ふ。(高橋吉之助)

お断り

此度本誌の發賣を直接發行所で行うことになり、右業務一切を紀伊國屋書店から繼承しましたから御承知下さい。

昭和二十六年三月二十五日印刷  
昭和二十六年四月一日發行

第四十四卷  
第三・四號

本號定價 九拾圓  
送料 六圓

禁 轉 載

編輯 東京都港區芝三田慶大經濟學部内  
發行所 高 村 象 平  
印刷所 東京都港區芝三田慶岡町八  
川 口 芳 太 郎  
印刷所 圖書印刷株式會社

豫約購讀料一年分 金八四〇圓(送料共)  
半々年分 金四二〇圓(送料共)

豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。  
誌代變更の場合は精算決済致します。  
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣  
申込も發行所へ願います。

發行所

東京都港區芝三田二丁目  
慶應義塾大學經濟學部研究室内  
慶 應 義 塾 經 濟 學 會  
日本出版協會會員B二二〇一六